

2022年3月6日

## 主日礼拝

《礼拝》

礼拝讃美歌⇒194番（旧112番）

『まもなく主来ます』

聖書⇒イザヤ書 2:1~5 節

『アモツの子イザヤが、ユダとエルサレムについて幻に見たこと。終わりの日に／主の神殿の山は、山々の頭として堅く立ち／どの峰よりも高くそびえる。国々はこぞって大河のようにそこに向かい多くの民が来て言う。「主の山に登り、ヤコブの神の家に行こう。主はわたしたちに道を示される。わたしたちはその道を歩もう」と。主の教えはシオンから／御言葉はエルサレムから出る。主は国々の争いを裁き、多くの民を戒められる。彼らは剣を打ち直して鋤とし／槍を打ち直して鎌とする。国は国に向かって剣を上げず／もはや戦うことを学ばない。ヤコブの家よ、主の光の中を歩もう。』

礼拝讃美歌⇒208番（旧301番）

『汚れと争いは』

聖書⇒詩編 92:1~6 節

『【賛歌。歌。安息日に。】

いかに楽しいことでしょう／主に感謝をささげることは／いと高き神よ、御名をほめ歌い  
朝ごとに、あなたの慈しみを／夜ごとに、あなたのまことを述べ伝えることは  
十弦の琴に合わせ、豎琴に合わせ／琴の調べに合わせて。  
主よ、あなたは／御業を喜び祝わせてくださいます。わたしは御手の業を喜び歌います。  
主よ、御業はいかに大きく／御計らいはいかに深いことでしょう。』

礼拝讃美歌⇒340番（旧86番）

『絶えず歌え』

《パン裂き》

聖書⇒コリントの信徒への手紙一 11:23~26 節

『わたしがあなたがたに伝えたことは、わたし自身、主から受けたものです。すなわち、主イエスは、引き渡される夜、パンを取り、感謝の祈りをささげてそれを裂き、「これは、あなたがたのためのわたしの体である。わたしの記念としてこのように行いなさい」と言われました。また、食事の後で、杯も同じようにして、「こ

の杯は、わたしの血によって立てられる新しい契約である。飲む度に、わたしの記念としてこのように行いなさい」と言われました。だから、あなたがたは、このパンを食べこの杯を飲むごとに、主が来られるときまで、  
主の死を告げ知らせるのです。』

礼拝讃美歌⇒145 番（旧 60 番）

『主イエスよ、われらは（今もろともに）』

《建徳》

聖書⇒創世記 16:1~9 節

『アブラムの妻サライには、子供が生まれなかった。彼女には、ハガルというエジプト人の女奴隷がいた。サライはアブラムに言った。「主はわたしに子供を授けてくださいません。どうぞ、わたしの女奴隷のところに入ってください。わたしは彼女によって、子供を与えられるかもしれません。」アブラムは、サライの願いを聞き入れた。アブラムの妻サライは、エジプト人の女奴隷ハガルを連れて来て、夫アブラムの側女とした。アブラムがカナン地方に住んでから、十年後のことであった。アブラムはハガルのところに入り、彼女は身ごもった。ところが、自分が身ごもったのを知ると、彼女は女主人を軽んじた。サライはアブラムに言った。「わたしが不当な目に遭ったのは、あなたのせいです。女奴隷をあなたのふところに与えたのはわたしなのに、彼女は自分が身ごもったのを知ると、わたしを軽んじるようになりました。主がわたしとあなたとの間を裁かれますように。」アブラムはサライに答えた。「あなたの女奴隷はあなたのものだ。好きなようにするがいい。」サライは彼女につらく当たったので、彼女はサライのもとから逃げた。主の御使いが荒れ野の泉のほとり、シュル街道に沿う泉のほとりで彼女と出会って、言った。「サライの女奴隷ハガルよ。あなたはどこから来て、どこへ行こうとしているのか。」「女主人サライのもとから逃げているところです」と答えると、主の御使いは言った。「女主人のもとに帰り、従順に仕えなさい。」

聖書⇒創世記 16:13 節

『ハガルは自分に語りかけた主の御名を呼んで、「あなたこそエル・ロイ（わたしを顧みられる神）です」と言った。それは、彼女が、「神がわたしを顧みられた後もなお、わたしはここで見続けていたではないか」と言ったからである。』

聖書⇒創世記 16:15~16 節

『ハガルはアブラムとの間に男の子を産んだ。アブラムは、ハガルが産んだ男の子をイシュマエルと名付けた。ハガルがイシュマエルを産んだとき、アブラムは八十六歳であった。』

礼拝讃美歌⇒258 番（旧 120 番）

『尊き主の』

《建德要旨》

①